

今月の
おすすめ



「著者略歴」
ジョン・コラビント
横山啓明 / 訳
早川書房
交通事故死したルーム
メイトの小説を盗作し、一躍ベスト
セラー作家となったキャル。しかし
盗作を知る脅迫者が現れ...

【中央図書館所蔵】



「田園に暮らす」
鶴田静
柴田書店
房総でシンプルな田園
生活を送る著者がその
暮らしぶりを綴る。美しい田園風景
と目にもおいしそうな野菜料理の写
真とレシピ満載。

【中央・葦山図書館所蔵】



「御書物同心日記」
出久根達郎
講談社
無類の愛書家・家康が
収集した書物を守る
將軍家の御文庫。この宝の山を守る
御書物同心が会う事件を江戸情緒
豊かに描く時代小説。

【中央・長岡・葦山図書館所蔵】



「おおきな木」
シエル・スルヴァスタイン
ほんだきんいちろう / 訳
篠崎書林
“愛”について心の奥に
語りかけてくるような絵本。出版以
来、幅広い年齢層に読み継がれてき
た名作。葦山図書館では原書も所蔵。

【中央・長岡・葦山図書館所蔵】



おもしろい
1冊

「眉山 (びざん)」
さだまさし
幻冬舎
母はなぜ自分に黙って献体を申し
込んだのか？母の命が尽きるとき、
娘は毅然と生きてきた母の切なく
苦しい愛を知る。感動長編小説。

【長岡図書館所蔵】



**「はいけい、
たべちゃうぞ」**
福島サトル
B L 出版
山の小さな家に越して
きたぶたのズーフは、謎の相手と文
通を始めたけれど...。最後までハラ
ハラドキドキのストーリー展開。

【長岡・葦山図書館所蔵】

絵本で親子の ふれあい ブックスタート



ブックスタートとは、市内で生まれたすべての赤ちゃんとお母さんに
メッセージを伝えながら絵本を手渡す運動のことです。市では、3カ
月検診にきた親子を対象に絵本をプレゼントしています。



絵本を読みながら手渡します



赤ちゃんのための絵本2冊とブ
ックスタートのすすめ、図書館
の絵本リストが配られます

問合せ

中央図書館 電話 0558 76 5566 休館日 6月6日(月)・13日(月)・15日(水)~24日(金)・27日(月)
長岡図書館 電話 055 947 2364 休館日 6月24日(金)
葦山図書館 電話 055 949 8605 休館日 6月6日(月)・13日(月)・14日(火)・20日(月)・24日(金)・27日(月)

伊豆の国市には 文化財がたくさん

市内の県指定文化財一覧

文化財通信



その2

このコーナーでは毎月、伊
豆の国市内の指定文化財を紹
介していきます。私たちのふ
るさとの文化財を訪ねてみて
はいかがでしょうか。
今回は、市内の県指定文化
財を紹介します。

問合せ
社会教育課文化財担当
電話 055(949)6809

No	種別・名称	員数	所在地	所有者	公開	摘要
1	有形文化財(建造物) 旧上野家住宅	1棟	四日町	伊豆の国市	公開	18世紀、昭和53年移築、市 歴史民俗資料館
2	有形文化財(彫刻) 木造金剛力士像	2躯	奈古谷	(宗)国清寺	公開	授福寺仁王門、鎌倉時代、榎 寄木造、昭和51年保存修理
3	有形文化財(彫刻) 木造阿弥陀如来坐像	1躯	寺家	(宗)願成就院	非公開	鎌倉時代前期、慶派の作
4	有形文化財(彫刻) 木造地藏菩薩坐像	1躯	寺家	(宗)願成就院	公開	歓喜3年(1231年) 榎寄木、 玉眼、通称政子地藏
5	有形文化財(彫刻) 木造阿弥陀如来坐像	1躯	南江間	(宗)北条寺	公開	鎌倉時代慶派、旧重要美術品
6	有形文化財(彫刻) 木造観音菩薩坐像	1躯	南江間	(宗)北条寺	公開	鎌倉時代後期、宗風
7	有形文化財(絵画) 絹本淡彩江川坦庵自画像	1幅	葦山葦山	個人	非公開	江戸時代末、絹本淡彩、江川 坦庵筆
8	有形文化財(絵画) 甲州微行図	1幅	葦山葦山	個人	非公開	江戸時代末、絹本淡彩、江川 坦庵筆
9	有形文化財(絵画) 富士山画賛	1幅	葦山葦山	個人	非公開	江戸時代末、紙本墨画、江川 坦庵筆
10	有形文化財(絵画) 飲中八仙書画	対幅	葦山多田	個人	非公開	江戸時代末、絹本彩色、江川 坦庵筆
11	有形文化財(工芸) 牡丹鳥獣文織帳	3帳	南江間	(宗)北条寺	半公開	伝北条政子寄進
12	有形文化財(書籍) 紺紙金字法華経	10巻	長岡	(宗)宗徳寺	非公開	建治二年
13	有形文化財(美工作品) 梵鐘	1口	葦山金谷	(宗)本立寺	公開	元徳4年(1332年)円成尼、 旧鎌倉東慶寺
14	有形文化財(考古資料) 仲道A遺跡出土縄文草創期遺物一括	1括	田京	伊豆の国市 (中央図書館展示室)	公開	縄文草創期出土品(多縄文系 土器)

心に響く 読み語り講座

活字を言葉として表現
し、それを相手に伝え
る。それはとてもエネル
ギーのいることです。な
ぜなら、言葉は昔から
「言葉」といわれ、その
人の精神が声となって表
れるからです。自分を磨
くことも「心に響く語り」
をする一つになります。
これらのことを基本
に、本の内容を理解し、
声に出し表現していく全
三回の講座です。

日時 六月十七日、七月
一日、七月十五日

会場 葦山時代劇場
研修室2
十分まで

定員 十五人

参加費 一回千円(会場
費・テキスト代を
含む)

問合せ・申込み
社会教育課
電話 055(949)
6809